

1 「子どもの権利条約」 推進部門

子どもの「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」がより保障される社会をつくるために

引き続き、不登校の子どもの居場所づくりを受託・実施。非行の子どもの自立に向けた「親たちの会」の運営、隔週講演会、シンポジウムの開催などに取り組みました。

1-1 親の会(非行問題プロジェクト)事業

2006年度～
自主事業

非行の子どもをもつ親の会[陽だまりの会]を中心に、昨年度に発行した～思春期の問題行動に向き合うハンドブック～『プラス一歩』で協力していただいた支援団体と更にネットワークを深め、非行の子どもを支えるための居場所づくりに努めました。

また、大阪府人権協会コミュニティづくり協働事業助成金を受けて高校中退者や非行、不登校などの経験を持つ子どもたちの居場所として、【学校】をテーマに人とつながることの大切さ、居場所の必要性と、社会への参加・参画への道筋を考えました。

- 1) 非行の子どもの社会的自立をめざして [陽だまりの会] (親の会)
毎月第1土曜日 14:00～17:00 (計12回) 参加人数/96人 (23年度延べ人数)
- 2) 親の会を支えるための専門家・サポート団体による運営会議
10月(2回)・11月・12月・1月・2月・3月 (計7回)
- 3) イベントに向けての検討会議
5月・6月・8月・9月・12月・1月・2月・3月 (計8回)
- 4) 『不登校』と『非行』

学校をとり巻く環境と子どもたちのことを考える一日限りのフォーラム

開催日時：2012年3月10日(土) 10:00～17:30

場所：大阪府私学教育会館

参加人数：93名

協力：

NPO法人フリースクールみなも・北星学園余市高等学校

—内容—

【映画】

「月あかりの下で」～ある定時制高校の記憶～

【講演】

タイトル：学校 - 親の期待と子どもの気持ち

講師：廣木 克行 氏 (千代田短期大学学長)

【シンポジウム】

タイトル：『不登校』『非行』学校をとり巻く環境と子どもたちのことを考える

コーディネータ：松浦 善満 氏 (和歌山大学教育学部学長補佐)



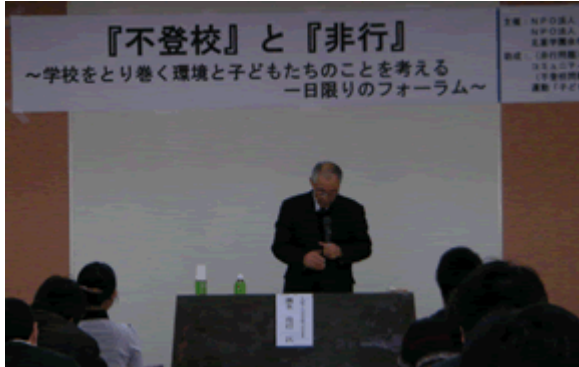
シンポジスト：安河内敏氏（北星学園余市高等学校校長）

森ひとみ氏（元定時制高校講師）

野田詠氏氏（チェンジングホーム施設長・大阪セカンドチャンス！代表）

【サポート団体紹介展示ブース】

参加団体：NPO 法人非行克服センター、フジゼミ、富田ふれ愛義塾、NPO 法人 DYS、奈良つきあかりの会（親の会）、あべの不登校児・軽度発達障害支援グループ「スペースゆう、志塾フリースクール、ギャロップ、のびのび志塾フリースクール、志塾フリースクール「ラヴニール」、西宮サドベリースクール、近畿自由学院、他 13 団体



講演：廣木 克行 氏



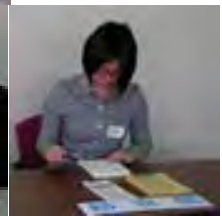
シンポジウム

<コーディネータ>
松浦 善満 氏

<シンポジスト>
安河内 敏 氏
森 ひとみ 氏
野田 詠氏



サポート団体紹介
展示ブース



【次年度の計画】

2011 年度に引き続き、非行の子どもの社会的自立をめざした [陽だまりの会] (親の会) を中心に、支援団体との連携と居場所づくり、また、子どもが最も安心できる居場所を家族と踏まえ、親子のコミュニケーションについて考えたいと思います。

大阪市子ども青少年局から大阪市不登校児童通所事業の委託を受け、昨年度より此花区四貫島にあるサテライト此花の運営を開始しました。

サテライト此花には前年度より継続して登録している登録者が4名おり、一人ひとりの子どもの課題に向き合いながら、居場所で活動を行いました。

- ・ 居場所開設日：火・水・木・金 11：00～15：30
 - ・ 開設場所：此花区子ども・子育てプラザ内 音楽室
 - ・ 居場所登録人数：4名
- (内訳：中学3年生1名、中学2年生2名、小学6年生1名)

<子どもに向けて>

スタッフや子ども同士のコミュニケーションを通じて、人間関係の構築ができるよう居場所を運営しました。活動場所は居場所内に限定せず、施設内にある軽運動室や近隣の公園等も利用し、日々の集団生活する中で子どもたちの「やりたい」気持ちを尊重した活動を心掛けました。そして、スタッフと子どもとの関係作りでは、紹介文を壁に貼ったり、居場所に来る皆が情報共有できるよう大きなカレンダーを作成する等工夫を施しました。そうしたことにより、コミュニケーションツールの1つとして機能を果たしました。

体験活動では、季節ごとの行事やイベントを実施しました。子どもの声に沿った活動を行い、また講師プログラムも充実させました。今年度は、アニメーター、手芸講師、音楽療法士、キッズキッチンスタッフといった多様な職業の方をお招きし、子どもたちにとって普段経験することがない貴重な機会を設けました。

【実施したイベント】

- 4月～6月：消防署での救命講習、ベビーカステラ作り
- 7月～9月：手芸教室、ピザと野菜スープ作り、ネイル体験、遠足（大阪市立科学館）、ハロウィンパーティー
- 10月～12月：たこ焼き作り、音楽療法士による音楽活動、クッキー作り
- 1月～3月：アニメーターによるアニメ作成講座、バレンタインチョコ作り
遠足（奈良公園）、サテライト此花お別れ会

<他機関との連携>

行政機関、医療機関及び登録者の所属学校と連携をはかり、登録者の社会復帰に向けての情報交換や学習・進路支援を行いました。居場所で活動するスタッフには不登校支援に必要な研修を企画・実施し（13回）、それに加えて各団体が実施する各種勉強会への参加を呼びかけ（4回）、人材育成に努めました。

【次年度の計画】

引き続き、大阪市子ども青少年局より委託を受けてサテライト此花の運営を実施します。

子ども支援に必要な研修を企画・実施し、それに加えてNPOとして実施する各種勉強会へ参加したスタッフに、居場所で活動してもらいました。多様なスタッフがいることにより、「いろんな考え方の人がいる。私は私のままでいいんだ。」という安心感が得られたという子どもの声がありました。また、子どもが一人一人のスタッフに対して興味を持つようにもなりました。スタッフ向けの研修会では、スタッフ同士の人間関係(コミュニケーション)も深まるように多様な研修会やワークショップを企画・実施しました。それに加えて、不登校の子どものサポートに必要な専門性を高めるため講師を招いて研修を行い、各地で実施された研修会や学習会などに参加する機会を提供しました。

実施月	スタッフ研修内容
4月	個人情報に関する研修
5月	サドベリーバレースクール卒業生のベン君の講演会 居場所の役割について理解する研修 消防署で救命講習
7月	デモクラティックスクールまっくろくろすけで一泊研修
8月	ボランティアコーディネーター養成講座
9月	メンタルフレンド共有会 NPO 法人箕面こどもの森学園見学
10月	大阪市発達障害者支援センターエルムおおさかの講師による、発達障害を理解する研修 大阪府立西成高等学校見学
11月	大阪市こども相談センター主催「大阪市不登校児童通所事業指導員交流会」に参加 大阪府立桃谷高等学校見学 当会主催『「子ども」という時間と放課後』に参加
12月	大阪市こども相談センター主催「不登校問題講演会」に参加 メンタルフレンド共有会
3月	当会主催『「不登校」と「非行」学校をとり巻く環境と子どもたちのことを考える』に参加 今年度の振り返り研修

【次年度の計画】

さまざまな背景をもった子どもたちに適切に、また柔軟に対応ができるよう継続したスタッフの研修を企画・実施をします。また、スタッフ間の連携が取れる体制づくりに努めます。

子どもが生活し学ぶ場所は学校だけに限定することができず、家庭、学童保育や地域といった場所や多様な場や人との出会い、関わりがあって子どもの成長が保障されます。この考えに基づいて、昨年度は子どもの多様な教育、多様な子育ての環境を知り、学び深める事業としてシンポジウムを開催と、それに伴う学習会である「オルタナ研究会」を立ち上げました。2011年度も2010年度に引き続き「オルタナ研究会」を開き、教育や子育て関係の実践かが集まり定期的に多様な教育・子育ての学びを深めました。学び深めたテーマは、子どもの学習権などの観点から、子どもの貧困と学業達成・キャリア、学校とそれ以外の居場所について、など多岐に渡りながら子どもの居場所や学び場、生活の場の多様さへの認識が深まりました。

■ 「オルタナ研究会 -多様な教育・子育てを考える-

【第一回】

- ・日時：2011年6月17日 19:00～21:30
- ・テーマ：今年度の取り組み内容について

【第二回】

- ・日時：2011年8月19日 19:00～21:30
- ・テーマ：読書会 青砥恭『ドキュメント高校中退 ーいま、貧困がうまれる場所』、2009、筑摩書房
- ・テーマ2：貧しさと選択のできなさについて

【第三回】

- ・日時：2011年10月21日 19:00～21:30
- ・テーマ：大阪府立西成高校の貧困学習について

【第四回】

- ・日時：2011年11月18日 19:00～21:30
- ・テーマ：キャリア教育の歴史的展開について
- ・テーマ2：フリースクールの児童・生徒たちのキャリアについて
- ・テーマ3：大阪府立桃谷高校について

【第五回】

- ・日時：2011年12月19日 19:00～21:30
- ・テーマ：フリースクールの卒業後の子ども達の進路状況
- ・テーマ2：勉強会 貴戸理恵『不登校を終わらない』、2003年、新潮社

参加者：フリースクール関係者、アートNPO関係者、居場所作り関係者、大学院講師

【次年度の計画】

オルタナ研究会を2011年度に引き続き実施します。今までの研究結果をまとめ、発表することを目指し研究を進める予定です。

2

次世代育成 支援部門

誰もが安心して自信を持って子育てができる環境をつくるために

地域の中で大人も子どもも共に育ち合う「共育」をめざし、コミュニティづくりと子育て支援の拠点施設を運営。また、地域の子育て支援スタッフ向け研修会や、一時保育を通じた子育てサポートなどを行いました。

2-1 つどいの広場「ゆう」運営事業

2008年度～
受託事業

寝屋川市から委託を受け、寝屋川市立三井小学校の余裕教室を利用したつどいの広場「ゆう」の運営も無事4年目を終えることができました。おおむね三歳未満の子どもとその保護者を対象に、開設時間中にはいつでも利用でき、広場スタッフが2名以上常駐しています。同じ年齢くらいの子どもたちが一緒に遊んだり、親同士の交流を深めたり、子育てや地域の情報などを提供しています。

小学校で開催している事を生かして、小学生と交流会も実施しました、1年生との交流会では、歌を聞かせてもらったり、絵本を読んでもらったり、一緒に遊んで楽しみました。5年生との交流会では、講師で招いている助産師による「命の授業」を開催、利用者の妊婦さんに協力を得て、胎児の心音を聞かせてもらったり、大きなお腹に触れたり、小学生にとって貴重な体験が出来たと学校側からも喜ばれています。

定例プログラムとして、「食の相談」（栄養士のスタッフによる食に関する個別相談）、「子育てセミナー」（保育士、助産師、保健師、歯科衛生士などをゲストに招き、日常の子育ての心配ごとの相談、歯磨き指導等）、「親子ふれあい広場」（親子ヨガ、ベビーダンス、親子でストレッチ等）、季節の手作り講習会（こいのぼりやクリスマスリース等）やお誕生会、遊休品の交換会などを実施しました。昨年度の定例プログラムに加えて、今年度は元保育士や地域の図書館で活動している方からボランティア希望の申し入れがあり、ベビーマッサージ、タッチセラピー、わらべうたと絵本が加わり、利用者にも様々な体験をしてもらえるようになりました。

広場以外でも今年度からイオンモール寝屋川で月2回の「出前広場」開催が加わり、昨年度からの子育てサークルへの支援や地域の公園での「絵本の日 出前」、香里園駅前のふらっとねやがわでの「広場出前」と共に、より広い地域で、子育て力を高める活動に広く取り組む事が出来ました。

「ゆう」に遊びに来ることで少しずつ親同士の交流が広がれば、同じ地域の中で支えあっていける関係ができ、その上で地域の人たちが子育て家庭を応援する、そんな子どもも親も安心して育つ環境づくりにつなげていきたいと願っています。

- ・ 開設時間：火・水・木・金・土の 10:00～16:00
- ・ 会 場：寝屋川市立三井小学校普通教室棟 1 階
- ・ 参加者数：6,285名（延べ人数、内訳：おとな2,990名、子ども3,295名）

2011年度決算額 5,251,000円 （2012年度予算額 5,251,000円）

【次年度の計画】地域の子育て支援拠点として、地域の方や中学校・高校・大学生と連携し、職業体験の受け入れや、日常的なボランティア受け入れを行います。またさらに父親の参画がしやすいよう、毎月の父親向けのプログラムを取り入れ、ブログや広場ニュースなどを活用しながら地域への広報を推進していきます。合わせて、小学校児童との交流活動もすすめていきます。

NPO・企業とのコラボレーションによる事業「共育（ともいく）」とは、世代間を越え、地域の中で大人も子どもも共に育ちあう関係づくりをめざし、JR学研都市線「松井山手駅」前で、ファミリーリソースセンター「つくるところ[京阪東ローズタウン共育ステーション]」を運営しています。「つくるところ」では、オリジナルプログラムを考え、子どもと親・地域との関係づくりをサポートしていきます。コンセプトを実現するプログラムとして、「つくる」プログラムを積極的に導入、様々な「つくる」プログラムを通して、子どもたちの「自主性」や「創造力」、「協調性」や「コミュニケーション能力」を育むことを大切にしています。

<プログラム>

▽子育て中の親をサポートする子育て応援プログラム

生後3か月から小学校4年生までを対象に、一時保育や講座保育、月極め保育などの保育事業や、放課後クラブといった学童保育にも取り組んでいます。仕事だけでなく、リフレッシュや通院など、幅広い目的で利用いただいています。また、週2回親子でゆっくり過ごすことのできるおやかフェや、月1回で育児用品の交換ができる「いちごバザール」・身長・体重測定デー・

ママのリフレッシュの為のハンドトリートメントなども開催しています。

【保育】

- ・ 保育登録者：411名
- ・ 月極め保育登録者：24名（2011年3月）
- ・ 保育年間利用者数：3318名（延べ人数）
（2011年度末現在）



【カフェ】

- ・ おやかカフェ年間利用者数：1410名（延べ人数）
（2011年度末現在）



放課後クラブメニュー：放課後クラブ、おえかきひろば



▽子どもや親、地域の人たちの関係づくりをテーマにしたスクールプログラム

地域の方々や「つくるところ」のスタッフが企画した講座、また、外部のパートナー企業やNPOが実施する講座など、バラエティ豊かな講座を展開します。親子で一緒に楽しめる講座や集まってきた地域の友達と一緒に活動することで創造力を広げ、コミュニケーションの力を育みます。幼児から小学校中学年までの子どもを対象にした「食育」「アート」など、創造的なプログラムを多彩に提供しています。

おとな講座：初めてのタイ式ヨガ、KAQILA、ゴスペルスクール、
ともいくサロン、各国料理教室、男子厨房に入る♪

おやこ講座：プレ・キッズキッチン

こども講座：キッズキッチン、つくとこ探偵団、宿泊体験、こどものまち“ミニ京都”、

つくる講座：パステルアート、アロマクラフト、ビーズワーク、クレイアート、
デコアート



- ・つくるところ会員数：166組
- ・ボランティア登録数：約172名（延べ人数）
- ・連携団体：京阪カインド（株）、京阪電気鉄道（株）

（2011年度末現在）



【次年度の計画】

保育事業では保育内容の充実の為、料金の改定を行いました。より一層充実した保育を努めます。

その他の事業については今後縮小及び中止。2012年9月以降には保育に特化した施設へと生まれ変わります。

保育グループ“カシオペア”では、保育を通じた子育てへのサポートをめざし、「こどももおとなも、ありのままでゆっくりと」をモットーに活動を行っています。

2011年度の行政・企業・団体などからの保育依頼は、25件でした。2010年度の一時保育依頼件数は17件で、少し依頼件数が増加しました。新規の依頼が4件で、それ以外はこれまで一時保育を利用いただいた団体からの利用で複数年継続的に利用いただいています。

保育グループの保育者研修や会議も2011年度は積極的に実施しました。

4月14日13時～15時・・・23年度保育体制の確認、大掃除

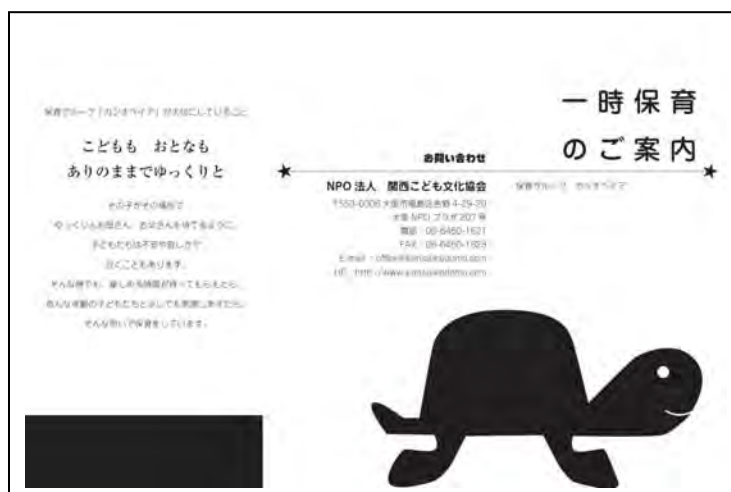
8月24日13時30分～16時・・・半期振り返りと保育申込み状況など諸連絡、大掃除

11月16日10時30分～12時・・・振り返りと課題の解決、保育状況報告など

3月6日10時～11時30分・・・個人情報研修、講座サポート制度の説明（再）

また、市民に向けては保育ボランティアの受入れを行っています。2011年度は、ボランティア参加ができるほど、回数・規模共に大きくはなかったことから、ほとんどボランティアに活動してもらう機会がありませんでした。しかし、ドーンセンターでの一時保育も含め、ボランティアの活動機会を確保していくことも踏まえ、今後もホームページやインファノ、チラシ等を通じて随時募集を行っていきます。

- ・対象：子育てサークル活動時、子育て支援講座や学習会、セミナー、コンサート、イベント時に一時保育を希望する主催者
- ・日時：申し込みに合わせ随時



[一時保育案内パンフレット]

【次年度の計画】

一時保育利用団体にとって利用しやすいような保育の仕組みを作成します。特に料金表の見直しを行います。料金見直しによって、保育者の負担を軽減しながら安全で子どもにとってもより充実した保育を目指します。

2011年度は、2010年度に引き続き、毎週木曜日の午前の一時保育を、昨年度と同額の予算で、ドーン利用促進事業協団体との協働で実施しました。

2011年度の総申込者数は122名、総利用者数は117名でした。昨年度の総利用者数は110名でしたので、利用実績は昨年度と比べて微増となりました。

2011年度は、2010年度の利用実績を参考に、ドーンセンターの個人利用者が増えないことも踏まえて、団体利用層の拡大を目的にした「一時保育付き講座サポート制度」の提案をしました。サポート制度の作成にあたっては、保育者やドーンセンター担当者と相談しながらすすめ、チラシも作成しました。年度途中での制度作成だったため、大きく広報することなくいつも一時保育をご利用いただいている団体に個別にご紹介するなどして、制度運用の試行を行いました。特に大きな問題が出ることもなかったため、2012年度の制度運用に向けて体制を整えています。

保育事業実施体制については、事務局スタッフと、保育者のシフト・謝金支払い・おやつ発注などの業務を担当するスタッフが、日常的に連絡を取り合いながら、子どもの年齢・人数・初めての保育かどうかなどを考慮して、きめ細かい保育体制を取るよう配慮し、安心・安全の保育をおこなってきました。

また、安心・安全の保育環境を作るため、保育者どうしのコミュニケーション及び、事務局と保育者とのコミュニケーションを重視し、一時保育事業についての説明会や「こどものへや」の大掃除時に、保育者の意見交換会をしました。

<2011年度受託事業内容>

- ・ 保育申し込み受付業務
- ・ 保育者配置業務（当会事務所にて）
月曜日～金曜日 13:00～17:00
メール・電話・FAX・郵送
- ・ 一時保育受付業務と保育
（ドーンセンター3階こどものへやにて）
毎週木曜日 9:30～12:30
（2010年5月6月7月8月9月10月のみ
13:15～16:30も）

ドーンセンターの会議室・ホールをご利用の方のための！

保育つき講座の開催を応援します!!

ドーンセンターでは、子ども連れでも安心して参加できるよう保育つき講座やミーティングの開催をサポートしています。

※ただし、サポート対象になるのは、講座やミーティング会場にドーンセンターの会議室・ホールをご利用の場合です。

サポートには2つのタイプがあります。

保育も利用しない場合

3回「こどものへや」を無料でお貸しします。
「こどものへや」利用の対象者は対象外の子どもです。
保育者の手配はご利用者でお願いします。

保育も利用する場合

「保育つき講座サポート制度」
会議室・ホールご利用の日時に合わせて、保育者を配置します。
▶ 保育対象年齢：0歳も1歳から就学前まで、完結する程度。
▶ 保 費 料：子ども1名につき100円(最大3時間、おやつ付き)
※「こどものへや」利用は無料
▶ 申 込 期：保育つき講座開催月の前月10日まで受け付けます。
※申し込み多数の場合は先着順とさせていただきます。
▶ 申 込 先：NPO法人関西こども文化協会
電話 06-6400-1621
〒553-0206
大阪市福島区吉野4-29-20 大坂 NPO プラザ 207号
詳細は裏へ→

ドーンセンターの「こどものへや」は、NPO法人関西こども文化協会が運営しています。

【次年度の計画】

「ドーン運営共同体」との協働のもと、一時保育を実施します。2012年度は、2011年度と同様、毎週木曜日の午前一時保育を実施します。さらに新たに「一時保育付き講座サポート制度」を開始します。新制度のため、あまり認知されていません。この一年間でサポート制度の利用者拡大を目指します。

2-5 「中高生のためのライフプランニング

学習プログラム開発事業」

2009 年度～
自主事業

2009 年度から始まった「女性のライフプランニング」は、2010 年度には「女子高生のためのライフプランニング」として「ワークライフバランスゲーム」内容を発展させてきました。また、2011 年 7 月 19 日(火)に「中高生からの WLB(ワーク・ライフ・バランス)」として、毎日新聞でゲームの様子を紹介する記事が掲載されました。

<記事一部抜粋>

『子育てや地域社会への貢献などの視点から「ワーク・ライフ・バランス」(WLB)=仕事と生活の調和=がますます重視されている中、NPO 法人関西子ども文化協会(大阪市)は中高校生を対象に、WLB 擬似体験ゲームの開発を進めている。今年度末に完成する見込みで、協会は「将来の暮らし方を自然に考えるきっかけになってほしい」と意気込んでいる。』

2011 年度の取り組みとしては、大阪府・市内の中・高校を中心に幅広く広報活動を行いました。また、市民活動に活かせるよう、ゲームを進める上でのコーディネータ育成にも力を注ぎました。

■「ワークライフバランスゲーム」実施

日時：2011 年 11 月 9 日(火) 13:00～15:00

場所：豊中市立庄内少年文化館

対象：豊中市庄内少年文化館職員



【次年度の計画】

中・高校生がワーク・ライフ・バランスゲームをより使いやすくするための開発と、ゲームの前後に行う学習内容などを改良し、実用化を目指します。また、昨年度に引き続き、広報活動も同時に行って行きたいと考えています。

3

企画・情報 提供部門

子どもの権利条約に適う教育や子育てに関する情報を伝え、意識を高め、市民の取り組みを促進するために

今、社会で課題となっていることをテーマに情報誌「インファerno」を定期発行。また、ホームページにて情報を随時更新しています。親や子どもの声に耳を傾け、子育てを取り巻く環境の変化と共に、団体の活動を分かりやすく伝えることで会員や支援者の拡大につとめました。

3-1 情報誌「インファerno」

1999 年度～
自主事業

子どもの今をみつめ、未来を育てる情報誌「インファerno」を定期発行しています。子どもや若者の声を拾い上げ、現代の子どもを取り巻く教育、非行、環境問題や子どもの参加権の保障など様々な問題に即して専門家・研究者による論説、NPO や行政・企業などの取り組みの現状と課題と共に、子ども自身の自主的な活動を社会に発信しました。

2011 年度の内容は、こどもの保有率も高くなった「ケータイ」や、社会全体を揺るがした東日本大震災、放課後の生活の変化、学校教育の未来像といった話題を取り上げ、時節に応じたテーマを設定することで、子どものリアルな環境の発信を心がけました。

36号	特集	ニュース	育つ・見守る・支える
	テーマ:子どもとケータイ ・インタビュー(協力:大阪府立東住吉高等学校) ・ケータイは心の問題(竹内和雄氏) ・シンポジウム報告「ネットトラブルから考える」 ～子どもと大人もネットの上手な利用者になる～	カナダ(ブリティッシュコロンビア州)の虐待再発防止プログラム 研修報告	小児病棟へ笑顔を贈る「ホッとアートプレゼント事業」
	子どもの社会参加	いちごとゆうのダイアリー	
	子どもと子ども、おとなと子どもをつなぐーはらっぱな中高青ー	つどいの広場「ゆう」のエッセー	
37号	特集	ニュース	育つ・見守る・支える
	テーマ:東日本大震災と子ども ・釜石の子どもを守った防災教育 ・東日本大震災 被災地の状況とNPOの活動 ・防災を学ぶ兵庫の高校生の支援活動 (協力:兵庫県立舞子高等学校)	NHK ハートフォーラム「自閉症・発達障害のある子どもの不登校への対応」	児童館による中高生の居場所づくり「ヨルのジドウカン」(塔南の園児童館 池田英郎、学生スタッフ 河野 奈津美)
	子どもの社会参加	いちごとゆうのダイアリー	
	若者がチャレンジする場～演劇表現をとおして～① NPO法人子どもコミュニティネットひろしま小笠原 由季恵	つくるどころ[京阪東ローズタウン共育ステーション]のエッセー	

38号	特集	講座報告	育つ・見守る・支える
	テーマ:小学校の放課後を考える ・座談会 親から見た子どもの時間と放課後(代田誠一郎氏、大野あゆみ氏、西田幸子氏、松尾真由美氏) ・子どもが群れ遊ぶ地域社会こそが持続発展する(松浦善満氏)	全国合同教育講演・進路相談会 大阪	「そして、つながる」 NPO 法人山科醍醐こども の広場 村井琢哉
	子どもの社会参加	いちごとゆうのダイアリー	
	若者がチャレンジする場～演劇表現をとおして～② NPO法人子どもコミュニティネットひろしま小笠原 由季恵	つどいの広場「ゆう」のエッセー	
39号	特集	講座報告	育つ・見守る・支える
	テーマ:大阪の学校教育はどこへいく? ・座談会 学校の先生のいいこと、アカンこと ・「大阪府教育基本条例案」について関西こども文化協会が思うこと(碓井 峯夫氏)	子育て支援者向け研修事業<大規模研修会> 『「こども」という時間と放課後』	1人親家庭の子どもの学習を支援する現場から 1人親家庭支援NPOあっとすくーる 松原光平
	子どもの社会参加	いちごとゆうのダイアリー	
	若者がチャレンジする場～演劇表現をとおして～③ NPO法人子どもコミュニティネットひろしま小笠原 由季恵	つくるところ[京阪東ローズタウン共育ステーション]のエッセー	

【次年度の計画】

時節に合わせたテーマで、市民目線の子ども、地域、社会への問いかけをしていきます。特に、課題に直面する子どもや若者の現実と、その一方で課題解決に主体性をもって取り組む子どもや若者の姿を捉え、それを支える市民活動や公的な人や組織のあり方を伝えます。

4

教育・子育て 調査部門

教育や子育ての事例やデータを蓄積・研究し、取り組みに生かすために

各地で開催される研修会やセミナーに参加しました。また、柴島高校のPTA支援、箕面市立彩都の丘学園の教育活動支援の事業にも取り組み、調査研究と並行しながら、教職員と連携して学校園の環境整備も行いました。

4-1 各種学習会、研修会への参加

1999年度～
自主事業

各事業の取り組みにいかすため、各地で開催される学習会や研修会、及びシンポジウム等に参加しました。

参加プログラム	場所	参加日
サドベリーバレースクール卒業生ベン君来日公演	兵庫	2011年5月15日
デモクラティックスクール「まっくろくろすけ」一泊交流会	兵庫	2011年7月9日、10日
EDU★COLLE～多様な教育の博覧会～ 出典	大阪	2011年8月21日
第37期ボランティアコーディネーター養成講座	大阪	2011年8月26日
NPO法人箕面こどもの森学園 参観	大阪	2011年9月26日
日本臨床協会学会 第一回研究大会	北海道	2011年10月1日、2日
御幣島小学校アート授業の見学	大阪	2011年10月11日
エルム大阪 井上芳子氏 発達障害の理解と支援についての研修会	大阪	2011年10月14日
南港渚小学校アート授業の見学	大阪	2011年11月9日
大阪市サテライト事業 メンタルフレンド交流会	大阪	2011年11月19日
大阪府立桃谷高校 見学会	大阪	2011年11月21日
大阪市サテライト事業 「不登校問題講演会」	大阪	2011年12月3日
「NHKハートフォーラム」発達障害 学齢期支援	大阪	2011年12月10日
大阪市サテライト事業 メンタルフレンド交流会	大阪	2012年1月22日
内閣府「困難を有する子ども・若者の相談業務に携わる民間団体職員研修」	東京	2012年1月30日～2月3日
セカンドチャンス！大阪ミニシンポジウム	大阪	2012年2月18日

箕面市立彩都の丘学園の「学校と地域のコラボスクール事業」に調査研究の部門で参画しました。彩都の丘学園は 2011 年度開校した大阪府下で 2 校目の小中一貫校です。学園が位置する彩都エリアも 2011 年 4 月からまちびらきしたニュータウンで、地域づくりと学校づくりが同時に始まりました。コラボスクール事業とは、①地域とともにつくる学校運営②幅広いネットワークによる学校支援③学校を拠点とした地域づくり、の 3 つの要素を柱として、学校と地域の特性を生かした活動を実践・検証することにより、「新しい公共」型学校づくりに必要な要素のモデル化に取り組むものです。平成 23 年度「社会教育による地域の教育力強化プロジェクト」における実証的共同研究に採択されています。

当会はコラボスクール事業の調査研究部門の教育コミュニティに関する領域を担当し、2011 年度のコラボスクール事業に関する保護者と教職員アンケートを行いました。アンケートでは、住民の持つ、学園や新しい地域に対する思いや教職員の 2011 年度の振り返りを拾い上げました。加えて、日常的に学園の放課後学習、大掃除、防災教育、出前授業といった諸活動に参加し、総合的に学校の活動に入り込み、学校の変化や子どもの様子、ボランティアの姿に直接的に触れる機会を多く設け、総合的に学校の活動を応援しました。また、それらを保護者や地域の方に広報しました。加えて、事業に参加する大学生に対してボランティア講座や彼らの力を活かした諸活動の可能性を探る企画なども行いました。

上記のアンケートの結果や日常の学校での活動で感じたことの連絡会議や日常のやりとりの中での共有や方向性の検討、ボランティアコーディネートを通して、地域が学校を元気に、学校が地域を元気にする地盤づくりに寄与しました。

【次年度の計画】

今年度も引き続き調査研究の部門で参画します。2012 年度は彩都エリアの世帯数も増え、2011 年度には起きなかった課題も立ち上がることが予想されます。その課題に対応しつつ、より多くの保護者、近隣の大学生といった地域住民が学校と一緒に子どもと地域を支援と生活を活性化させるシステムづくりに寄与し、またその成果を発表していきます。

5

市民活動コー
ディネート・ネッ
トワーク部門

他の NPO との連携や、NPO と企業・行政の協働のコー
ディネートで、市民活動の活躍の場を広げ基盤を強
化するために

子育て支援者を対象に、「放課後」をテーマにしたワークショッ
プを実施。また、北星余市高校の生徒募集協力を継続し、産後う
つの早期予防やその周知を促すシンポジウムにも取り組みまし
た。

5-1 「子ども」という時間と放課後

2011 年度
受託事業

財団法人こども未来財団から子育て支援者向け研修事業<大規模研修会>を受託、「放課後」をテーマに支援者向け研修会を実施しました。

「子ども」という時間にとって「放課後」とは、学校と家庭との狭間にある豊かな学びや生活を享受できる空間として重要視される一方で、市町村や活動内容によってその形態は様々で、団体・施設同士の連携や交流が難しい現状があります。

本研修会では、支援者同士の「交流」に重きをおき、他者との意見交換から学びや気づきにつながるようなワークショップを展開しました。支援者自身が日々現場で感じている様々な課題は、「放課後」を通して見えてくる、現代の子どもたちのリアルな姿でした。日々子どもたちと向き合う支援者たちが、豊かな放課後を保証するため導き出されるワークショップの答えは、どれも「子どもの権利条約」に通ずる根本的なものばかりです。今後はさらに「放課後」というテーマをより深く掘り下げ議論することで、子どもを取り巻く現状の課題解決にもつながる活動のあり方が見えてくるのではないかと、今後も継続した取り組みを実施していきたいと考えています。

【大阪開催】

- ・日 時：2011年11月23日10:00～16:00
- ・会 場：TKP 大阪梅田ビジネスセンター（大阪市福島区）
- ・参加者数：82名

【和歌山開催】

- ・日 時：2012年1月22日10:00～16:00
- ・会 場：和歌山大学（和歌山市）
- ・参加者数：132名

- ・主 催：財団法人こども未来財団・NPO 法人関西こども文化協会
- ・後 援：文部科学省、(社福) 全国社会福祉協議会、大阪府、和歌山県、大阪市、堺市、和歌山市、橋本市、(社福) 大阪府社会福祉協議会、(社福) 和歌山県社会福祉協議会、(社福) 大阪市社会福祉協議、(社福) 堺市社会福祉協議、(社福) 和歌山市社会福祉協議会、大阪府教育委員会、和歌山県教育委員会、大阪市教育委員会、堺市教育委員会、和歌山市教育委員会、橋本市教育委員会

【プログラム】

- 午前の部ワークショップ：「子どもという時間の“放課後”とは」
- 午後の部ワークショップ：「3つの間から考える“放課後”とは」
- 振り返り会：「明日から活かせる“放課後”支援」

【ファシリテーター】 北野真由美氏（NPO法人 えんばわめんと堺/ES）
有田雅恵、中川早苗、長岡幸子、堀口博子、藤田秋香

【アドバイザー】 松浦善満（当会代表理事、和歌山大学）
宮川浩氏（元学童保育指導員） ※大阪開催のみ
代田盛一郎（大阪健康福祉短期大学 子ども福祉学科）
※和歌山開催のみ



[案内ちらし]



[“特色のある放課後”紹介冊子]



[大阪開催の様子]



[和歌山開催の様子]

【次年度の計画】

（財）こども未来財団から子育て支援者向け研修事業＜大規模研修会＞を申請。引き続き、「放課後」をテーマに、「学童保育の公共性（仮）」と題した研修会を実施予定です。協力団体として大阪市学童保育連絡協議会、和歌山県学童保育連絡協議会とも連携し、昨年深めきれなかった課題テーマ別の分科会など、より支援者のニーズに合わせたプログラム内容を企画するため準備を進めています。

産後うつは、産後女性の10～15%が産後うつ病にかかるといわれるほどに、よく見られる病気の一つに挙げられるようになりましたが、まだその言葉はまだあまり知られていません。そのため事態の深刻さに気がつくことに遅れがちになることや、虐待の背後に産後うつ病が潜んでいるということも指摘されています。

その産後うつを早期発見し、母親自身が自ら周囲にSOSを投げかけ、周囲にいるものも、母親をサポートする体制をつくるきっかけにシンポジウムを開催しました。

須藤さんの講演では、当事者の立場で振り返って支援者に支援する際に心がけて欲しいということが要点としてあがり、シンポジウムでは助産師という立場から産後うつの説明があり、父親の立場で子育ての語りもあり、幅広い知見からお話が展開されました。

夫婦での参加、助産師、看護師、つどいの広場スタッフなど当事者や子育て支援者など幅広い方々に参加していただき、早期発見と当事者に寄り添う支援の必要性が確認されたと思います。

《「みんなで支える“産後うつ”シンポジウム》》

・日 時：11月3日（木・祝）14時～16時30分

・会場：いろいろ子育て相談センター（大阪市）

第1部 講演会：14時～14時50分

講師：『「産後うつ」ってどうなるの？～産後うつの体験から学ぶ～』

ママブルーネットワーク 須藤弘美氏

第2部 シンポジウム：15時～16時30分

「“産後うつ”のママを共に支えるためには？」

シンポジウム登壇者

- ・須藤弘美氏（ママブルーネットワーク）
- ・三輪寿江氏（大阪府助産師会）
- ・榎 英直氏（ファザリングジャパン関西メンバー）
- ・鶴飼幸子氏（保育ランドおあふ）
- ・コーディネーター：小崎恭弘氏（神戸常盤大学短期大学部准教授）

共催：ファザリングジャパン関西

大阪市社会福祉協議会（大阪市立子育ていろいろ相談センター）

保育ランドおあふ

協力：（社）大阪府助産師会

この取組は、麒麟福祉財団《子育て》公募事業助成により実施しました。



【次年度の計画】

ファザリングジャパン関西と24年度も連携をして、毎月1回家族で参加できる講座を「つどいの広場ゆう」のある寝屋川市を拠点に開催することになりました。産後うつ予防には「家族で子育て」の考え方を理解いただき、寝屋川市のイオンで子育て講座を開催することになりました。

北星余市高等学校は、全国の不登校の子どもや非行の子どもを積極的に受け入れている「普通」のミッションスクールです。このような子どもたちを受け入れるようになった出発点は1988年全国的に高校中退者が激増した時代に遡ります。

同時期北星余市は存続危機の状態にありました。生徒減を理由に理事会が「廃校」の決定をしたのです。しかし、教師たちは、生徒減の現実を認めつつも、この学校の役割、教師としての役割はまだあるはずだと、自分たちに何ができるのか模索しました。そのとき、高校中退者が社会現象となっていることに着目しました。そして、先生方は、中退した生徒の「やり直す場」として学校があり、社会のルールから離れ傷ついた生徒の寄り添う大人として教師としての役割を果たすことで学校を再生させたのです。

このような歴史を経て、現在の北星余市高等学校があります。かつては中退者が多かったのですが、現在は不登校の子どもが大半を占めています。しかし、不登校の増加とともに不登校の子どもの居場所や通信制の高校等の受け入れが可能になった環境もあり、受験生が大きく減少してきました。

そして、二度目の存続危機に陥りました。北星余市の役割はまだあるはず、教師たちは再び、学校と自分たちの役割を問い直し、今こそ北星余市の教育理念を社会に広げるべきだとの結論に至りました。

このような中、関西子ども文化協会も北星余市の教育実践に着目していました。きっかけは、松浦理事長の北星研究報告をお聞きしたことです。北星を何度も訪問し、校長先生のお話、教師の教育実践、そして、生徒の話、下宿の管理人さんの話、あらゆる角度から北星の教育理念、教育実践の素晴らしさを体験しました。そして、北星の教育実践を社会に広げることで「学校教育の在り方」にも言及できると判断し、事業協力を受けた次第です。

今年度は、昨年度の実績を踏まえ、さらに関係性を深める活動を行いました。岡山（倉敷・児島）、広島（市内、福山）、山口（下関、市内）等、主に西日本を中心に北星の教育理念に賛同し、事業協力要請に応じてくださった団体を再訪、新たな団体の開拓、訪問し、生徒募集への協力をお願いしました。

また、「不登校」と「非行」という同じテーブルで考えることのなかったシンポジウムを北星余市、フリースクールみなもと共催しました。参加者は100名を超え、このテーマの関心度の高さが伺えました。基調講演講師の廣木氏は「不登校も非行も根っこは同じ」と発言されました。参加者からとても高い評価を得、ある参加者は、充実したシンポジウムであったことで、当団体の活動にボランティア参加の希望があり、北星に関する興味も深まったという人もいます。

【次年度の計画】

2010年・2011年度に繋がった他団体との連携を深め、また、今年度開催した「不登校」と「非行」問題のフォーラムを基に共通するテーマとして【学校】を重視し、北星の学校説明会の企画にも参加したいと思います。

大阪府から補助金を得て、2011年9月から事業が始まりました。また、組織基盤強化として、パナソニックからも助成金をもらい関西子ども文化協会の組織基盤を強化する活動を実施してきました。主な取り組みは、働く環境を改善していくモデルケースの作成と勉強会の実施でした。

モデルケースの作成では、関西子ども文化協会の組織改善をモデルにするため、会議を毎月1回開催しました。参加者は、社会的認証開発推進機構の平尾氏、中小企業診断士の黒野氏、代表理事（蔦田、柳瀬）、新居氏、事務局で実施してきました。この会議の中で、関西子ども文化協会の組織的課題がどこにあり、どのように改善していけばいいのかを順を追って議論をしました。組織改善のために実施してきたことは、全職員を対象にした働く環境整備のためのヒアリングシートによる、職員の声を聞く機会を設けるということ、理事会と事務局の関係やそれぞれの役割についての整理、定款の意義や団体に即した内容についての議論などを行いました。

勉強会のタイトルは、「組織の世代交代をどうする！？転換期をどう乗り越える！？転換期のNPO組織運営勉強会＜組織改善＝働く環境整備＞」とし、3回に分けて実施しました。

第1回：組織診断してみよう 2011年12月2日（金）19時～21時、

講師：平尾剛之氏（社会的認証開発推進機構専務理事・事務局長）

参加団体12団体、参加人数20名

第2回：運営主体の変化をスムーズに 2012年1月14日（土）

第一部：運営主体（ガバナンス）の移行をするには？13時～14時55分

第二部：中長期ビジョンをつくろう 15時15分～17時

講師：平尾剛之氏（社会的認証開発推進機構専務理事・事務局長）

参加団体8団体、参加人数16名

第3回組織改革を实践する 2012年2月18日（土）

第一部：理事会と事務局の役割を学ぶ 13時～14時55分

講師：黒野秀樹氏（中小企業診断士）

第二部：振り返り—私たちはこうして組織変革の荒波を乗り越えようとしています。15時15分～17時

ファシリテーター：黒野秀樹氏、平尾剛之氏、事例報告：柳瀬真佐子

参加団体5団体、参加人数11名

【次年度の計画】

大阪府から引き続き補助金を得て、モデルケース作りと、中間支援としての役割を強化するために、組織基盤強化を促す支援員育成に取り組みます。また、NPOを働く場所しようと取り組んでいるNPO運営者を講師にした講演会も実施します。

柴島高校から PTA の活動と後援会の活性化についての相談を受け、2011 年度から家庭教育サポートを開始しました。高校と話し合いを重ね、PTA 主催の取り組みに家庭教育サポート事業を取り入れることになりました。2011 年度は 2 回、講演会と進路について考えるワークショップの取組を行いました。

第 1 回目：2011 年 5 月 7 日（土）15 時～16 時 30 分

15 時～15 時 45 分

講演会：親と子のコミュニケーション

講師：山本智也氏（京都ノートルダム女子大学教授）

15 時 45 分～16 時 25 分

ワークショップ「親子のコミュニケーションを考えましょう」

第 2 回目：2011 年 12 月 3 日（土）10 時～11 時 5 分

10 時～10 時 15 分

話題提供：後援会会長から親として子の進路を応援することについてのエピソード

10 時 15 分～11 時 5 分

ワークショップ「親子で進路の話をしていますか？」「子どもの進路選択をどう応援する？」

第 1 回、第 2 回共に、PTA の役員を中心に実施をしました。ワークショップのグループファシリテーターも PTA 役員が行うことによって、参加者である保護者も気軽に話しやすい雰囲気になっていたように思います。

参加した保護者からの感想では、「とてもよかったです。特にワークショップで他のお母さん方とお話できたのがよかったです。」「親から子どもへの思いがみなさん同じように悩んでいたの、少しほっとしました。」というように、ワークショップ形式で、保護者同士が交流できる機会のニーズもこの 2 回の実践によって感じる事ができました。

【次年度の計画】

柴島高校家庭教育サポート事業を継続することになりました。5 月 12 日に第 1 回目の取組を行いました。PTA 役員からは、「この取り組みをシリーズ化したい」「高校生になると保護者は先生との接点も持ちにくくなるし、保護者同士の関わりもすくなくなってくるので、こういう機会は必要」という声をいただいています。高校との調整をしながら、PTA の取組もまた活性化できるような家庭教育サポート事業を行います。

6

相談
部門子どもや保護者、支援者の声を聴き、相談に対応して
一人ひとりを支えるために

子育てや子どもに関する相談をしたい人、及び「子ども」に関わる活動をしている団体や人の相談にのり情報提供や応援・サポート（中間支援）をおこないました。

6-1 24時間電話教育相談事業

2006年度～
受託事業

2011年度より大阪市こども青少年局より、「電話教育相談」という形で改めて委託を受け2011年7月から「いじめ相談」から「教育相談」と名称を変更し、大阪市子ども相談センターとの協働で子どもや保護者等からのいじめ、不登校、学校や家庭でのしんどさやトラブル、交友関係のもつれ等に関する電話相談を24時間体制で実施しました。電話相談では1. 相談者の気持ちを受け止める、2. 状況を整理する、3. 相談者（こども、保護者）と一緒に状況に合った具体的な解決策を考え、必要に応じてリファール先を提示しながら、相談を受け付けました。また適切で柔軟な対応が常にできるよう、電話相談員にはケース検討を中心に、主訴把握や虐待対応といったテーマに沿った研修を含めて企画・実施し（12回）、それに加えてNPOとして実施する各種勉強会への参加を呼びかけ（2回）、人材育成の環境整備も行いました。

また、新しく業務に入った相談員に対しての「新人研修」を行い、ロールプレイによって相互に相談スタイルや相談の流れを検討する機会を設け、新人育成にも力をいれました。

《電話相談実施日時》

・日 時：月曜日から金曜日 19:00～翌朝9:00

土・日・祝・年末年始 24時間

《電話相談員定例研修実施日時》

・日 時：毎月第4木曜日 19:00～21:00

24時間電話教育相談 受付件推移（2011年4月～2012年3月まで）

単位（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
子どもからの相談	24	58	34	17	17	15	109	49	22	23	39	40	447
保護者からの相談	27	36	41	30	32	22	43	27	18	25	39	37	377
													824

（参考：2010年度691件）

【次年度の計画】

2011年度に引き続き「教育相談」として幅広い内容の相談への対応が予想されますので、挙げた相談の中から検討の必要性が高い相談事例を取り上げる研修機会を設け、より多岐な相談に対応できる体制を組むことに努めます。また、研修の内容・日時も相談員のニーズを考慮しながら設定し、多くの相談員が研鑽できる環境の整備に励みます。

インターン等の受け入れ

大阪経済大学 3回生 6名

企業実習、ビジネス・インターンシップの授業の一環として受け入れました。

・7月19日から8月31日（期間中18日間受け入れ、実質実習日数 各学生10日）

	実習内容		実習内容
1日目	オリエンテーション	10日目	「つどいの広場ゆう」イオン出前実習等
2日目	「不登校の居場所」日常活動実習	11日目	事務局実習等
3日目	「つくるどころ」放課後クラブ実習	12日目	「不登校の居場所」日常活動実習等
4日目	「つくるどころ」おやかカフェ、 保育準備実習等	13日目	「つくるどころ」小学生向けイベント実習
5日目	「つどいの広場ゆう」イオン出前実習等	14日目	インターンシップ振り返り
6日目	「つどいの広場ゆう」夏祭り準備実習	15日目	「つどいの広場ゆう」お誕生日会実習等
7日目	「つくるどころ」おやかカフェ、 各国料理準備実習	16日目	「ドーンセンター」こどもの部屋 大掃除実習、「つどいの広場ゆう」実習
8日目	「つどいの広場ゆう」夏祭り準備実習	17日目	「不登校の居場所」日常活動実習等
9日目	「つどいの広場ゆう」夏祭り当日実習等	18日目	「不登校の居場所」子育てプラザ夏祭り実習、 「つくるどころ」放課後クラブ実習

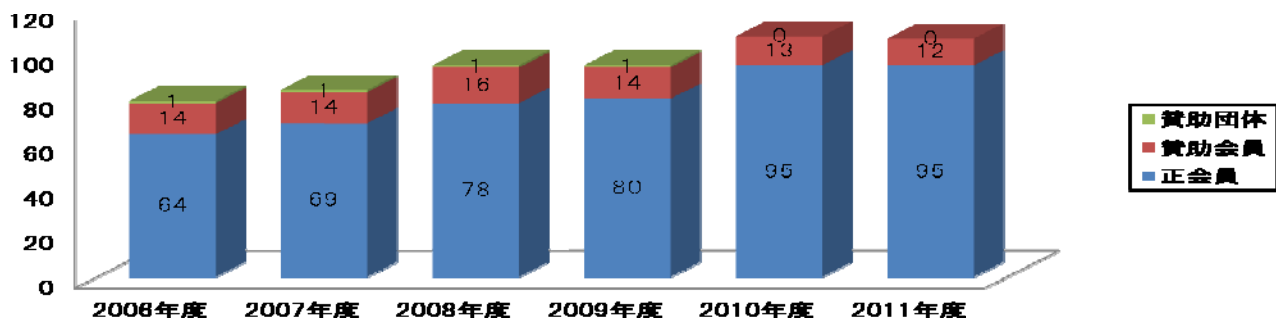
コネクションズおおさか（大阪市）職業訓練 17名

コネクションズおおさかについては、大阪市若者サポートステーションの取組で、関西こども文化協会が職業体験の体験先として登録をしていることから、2011年度は、職業訓練生を合計17名受け入れました。職業訓練生の多くは、ひきこもり経験者や、なかなか就職できない若者のため、コネクションズおおさかの担当者から訓練生の状況を聞き取りをした上で、受け入れをしています。毎月2名程度の受け入れをし、1名あたり1日の受け入れを基本として受け入れました。職業訓練時の業務内容は、事務局での事務作業が中心で、一時保育事業等の資料整理や過去の資料の整理などを手伝ってもらいました。

【次年度の計画】

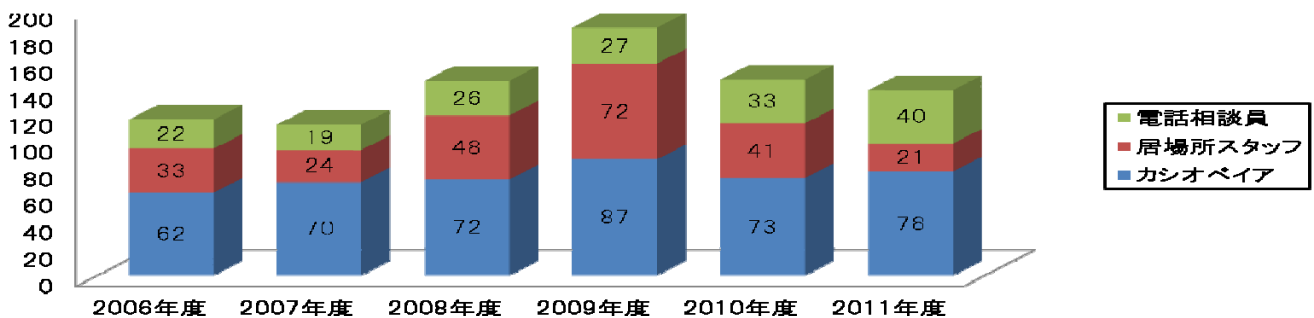
2012年度も大阪経済大学のインターンシップを引き受ける予定です（8月）。また、コネクションズおおさかの職業訓練も積極的に受け入れ、若者の自立に寄与できればと思います。また、事務局でのボランティア活動も積極的に呼びかけ、ボランティアさんと一緒に活動を行っていきます。

会員数



	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
正会員	64	69	78	80	95	95
賛助会員	14	14	16	14	13	12
賛助団体	1	1	1	1	0	0

スタッフ数



	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度
カシオペア	62	70	72	87	73	78
居場所スタッフ	33	24	48	72	41	21
電話相談員	22	19	26	27	33	40

今年度は子供たちの変化が大きい年だったためか子供たちの潜在的な能力凄さを感じました。その変化を目にして人間はやれば出来るということを痛感し、子供たちから勇気をももらった様に感じます。

(Hさん・2012年度メンタルフレンドチーフ)

メンタルフレンド(MF)を通じて受容することを学びました。不登校の子どもに対して直接的な助言は受け入れられませんが、徐々に子どもの持つ自己顕示欲や認められたいという感情を知り、受容できるようになったことで、良い関係性を築けました。

(Oさん・学生)

私は一年という短い間でしたが、MFを通して子ども達と関わり、子ども達の事や自分自身の理解を深めることができました。

一年前、私は教育学部出身であることから、子ども達に対し、教育的な視点で関わっていきたく、何かしてあげられたらと思い、MFを始めました。しかし実際は一年間子ども達と接し、自分が教えられたことよりも彼女たちから教わる事の方が多く、数え切れないほどたくさんの事を学ばせてもらいました。それは、私にはない新しい視点での物事の捉え方や、行動、柔軟な考え方など、彼女たちが持つ良さでした。これは、MFをしなければ気付かなかったことです。

また私自身、MFを通して自分自身の良さや欠点に気付け、自己理解を深めることができました。この一年、子ども達と接することで、自分の視野を広げ、様々な角度から物事を考えられるようになりました。

(Oさん・社会人)